



## 夏の暑さに負けない水稻新品種「愛知123号」を開発

(平成26年3月品種登録出願)



「愛知123号」

イネは、穂が出てから実るまでの期間が高温になると、デンプンの充実不足により白濁粒が増加します。本県の「コシヒカリ」栽培では、その期間（8月）が高温になることが多いため、白濁粒が増え、外観品質が低下することが問題となっています。このため、「コシヒカリ」



「コシヒカリ」（白濁粒が多い）

と高温に強い系統を交配し、DNAマーカーを利用して高温耐性を持つ個体を選抜することによって、「愛知123号」を育成しました。本品種の栽培特性、収量、食味は「コシヒカリ」と同等で、高温で栽培しても白濁粒が少なく、高い品質の米を生産することができます。

(作物研究部)